

2012年 8月23日・週刊きたかみ「文芸」欄では

『脱原発・自然エネルギー 218人詩集』発刊

…コールサック社から

北上の詩人らの作品を掲載、出版している東京の出版社（株）コールサック社は8日11日付で『脱原発・自然エネルギー 218人詩集』（日本語・英語合体版：A5判・624ページ／税込価格3150円）を発刊した。予知されていた悲劇。繰り返された過ち、メルトダウンを見つめて、悲しみの場所・福島、被曝した子供たちの未来、故郷に原発が存在する、脱原発の神話を、海から聞こえてくる声、太陽と地球からの訴状、人に優しい電気をつくるために、福島に寄せる海外詩人の詩篇の全11章で構成した。大震災以降、新たに試みられた詩篇を、国内外の詩人に呼びかけて編集した詩集。

同社代表で詩人・編者でもある鈴木比佐雄氏は「福島の悲劇を抱えながらも、果たさねばならない脱原発から自然エネルギーへと到る現在・未来を創り出す道標となるだろう」と解説で記す。

2011年10月22日音楽家の坂本龍一氏がオックスフォード、ハートフォードカレッジチャペルでのスピーチの言葉を「序文」に収録。『「フクシマのあとに声を発しないことは野蛮である」と』の言葉を帯文に入れた。

県内からは森三紗、金野清人、北上に在住した黒川純、北上市の東梅洋子、児玉智江の各氏の作品も掲載。岩手県生まれで、福島県南相馬市在住『福島原発難民』の著者でもある若松丈太郎氏も発表している。

津波で亡くなった人々への鎮魂の思いと対話も自然エネルギーへと通じ、人類共通の真のエネルギーへの「道」を、世界中の詩人が深い洞察で展望している。

と紹介されています。